

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

5年ぶりの府人勧どおりの賃上げ実施

初任給・若年層の給料引上げと一時金0.1月分引上げ

産育休取得予定者の代替者「事前任用」支援学校にも拡大

2022府労組連秋季年末闘争

11月8日と16日、府労組連（大阪府関連労働組合連合会）は秋季年末要求の実現を求めて府当局との団体交渉をおこないました。16日、総務部長は府労組連に対し、秋季年末要求に対する最終回答をおこないました。

物価高騰が続くも

生活改善につながる賃上げを要求

今季の闘争は、大阪府人事委員会が、職員給与は民間給与より1143円下回っているとして、月例給・特別給（ボーナス）ともに引き上げるとするプラス勧告のもとでのとりくみとなりました。

府労組連は、物価の高騰が続くもとのすべての職員・教職員の生活改善につながる賃上げ、会計年度任用職員の待遇改善（報酬引

ねばり強い運動の到達

総務部長から示された最終回答では、「府人事委員会の勧告通りに実施する」とし、①給料表を2022年4月1日から引上げ、②期末勤勉手当を2022年4月1日から年間0.1月分引上げ、年間4.4月分に改定、③再任用職員（行政職・医療職・公安職給料表）の給料月額を2023年度から引上げを行うとし、会計年度任用職員の報酬については、常勤職員の給料表改定に準じて2023年4月1日より改定するとしました。

また、高齢者部分休業について、定年が65歳まで引き上げられることを踏まえ、2024年4月から1回に限りフルタイム勤務への復帰を認めるとの回答も示されました。

しかし、今回の回答は、生活改善につながる賃上げには程遠く、特別休暇の拡充や現場の実態に見合った職員・教職員の増員など、切実な要求に対する前進的なものはなく、未解決の問題も多く残されています。

支援学校への産育休取得代替者の「事前任用」に言及

11月16日、総務部長との団体交渉の前におこなわれた人事局長との団体交渉では、現場の長時間労働の実態をもとに、その改善を求めて厳しく追及しました。

これに対し、府当局は、「過労死ライン超えや教員未配置は避けなければならぬ。当局としてできる限りのとりくみをおこなっていきたい」と回答しました。

8日の企画厚生課長との団体交渉では、代替教員が配置されない教育の「穴あき」問題に関連して、2023年度より、現在小中学校でおこなわれている産育休取得予定者の代替者を確保するための「事前任用」を産育休取得予定者に広げて支援学校にも拡大する考えを示しました。

大障教は、引き続き大教組・府労組連に結集し、すべての労働者の賃上げをめざして全力を尽くします。

【今季の主な最終回答】

○府人事委員会勧告どおり 実施

①給料表引上げ

（行政職初任給：高校卒程度4000円、大学卒程度3000円引上げ、20歳代半ば～30歳台前半までの職員が在職する号給について改定、その他の給料表は行政職に準じる）

※2022年4月1日から

②期末勤勉手当年間0.1月分引上げ、年間4.4月分

（再任用職員は0.05月分）

年間2.3月分

※2022年4月1日から

③再任用職員の給料月額引上げ（行政職給料表）

※2023年4月1日から

○会計年度任用職員の 報酬改定

※2023年4月1日から

○高齢者部分休業について1回に限りフルタイム勤務への復帰を認める

※2024年4月から

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



書記局のつうしん

サッカーのワールドカップ（W杯）カタール大会、1次リーグE組の日本は、23日の強豪ドイツとの初戦で2-1の歴史的な逆転勝利を飾りました。悲願だったW杯出場への夢が土壇場でついでに「ドーハの悲劇」から29年。同地で流した、あの悔し涙から7大会連続7度目の出場の成長と進化が見られました。

一方で、中東初開催となる第22回W杯カタール大会は、20日の開幕前から開催国カタールの人権侵害が指摘され、世界各地でポイコットなどを求める抗議の声が上がっています。

強い批判を受けている問題の一つは、性的少数者（LGBTQ）に対する人権侵害です。カタールでは同性愛を法律で禁じており、違反すれば最長7年もの禁固刑になる可能性があります。性的少数者（LGBTQ）だけにとどまらず、女性の権利や自由が大きく制限されています。

もう一つは、カタールの労働人口の大半を占める移民労働者に対する人権侵害で、給与の支払い遅れや違法な低賃金を強いられるとの報告（ヒューマン・ライツ・ウォッチ）がなされています。大会施設の建設現場では多くの出稼労働者が命を落とすという指摘もあります。豊富な天然ガスや石油が富をもたらしてきましたが、およそ290万人の人口のうち9割が外国人労働者で、わずか1割ほどの国民に豊かさが集中しています。

コロナ禍で強行された東京五輪をめぐる汚職や疑惑などが日本で報じられるように、世界的なスポーツイベントの巨額な利権をめぐる陰の部分などにも目をむけつつ、日本の一次リーグ突破とさらなる進化を期待し目が離せない日が続きます。

北河内ブロック分会合同教研

「なんで友だちと別々の学校になるの?」

9月23日(金・祝)にラポールひらかたにて、北河内ブロック分会合同教研を行い、5分会から15名が参加しました。「なんで友だちと別々の学校になるの?」どうなってる?北河内の通学区域割をテーマに、北河内地域の支援学校間での通学区域割変更の変遷や、それに伴う教育活動への影響、今も続く各校の「過大・過密」の状況を共有し、意見交流しました。



北河内全体でともにがんばろうと話しました

はじめに、大障教執行委員長の西田さん(守口支援分会)より、これまでの北河内地域の支援学校の通学区域変更の変遷について説明があり、当時の大障教ニュースなどの資料を見ながら振り返りました。続いて各分会の参加者より、各校における現状を報告し合いました。「転用により、教室間の移動に屋根のない屋外を通らざるを得ない場所がある」「同学年が棟をまたぐ教室配置にせざるを得ない」「教室が足りず、一クラスに入る子どもの基準数を超えた圧縮学級が増加している」といった、教室転用や教室不足による困難さが報告されました。また、「小学部を卒業したばかりの子どもたちにとって、学校が変わることは負担が大きいのではないか」「もの近くの学校を通り越して、遠くの学校に通わなければならないことを共有しました。文科省の教室不足

報告から、これまでの度重なる通学区域割変更で「過大・過密」は解消されておらず、いずれの学校でも、現在も児童生徒数の増加による教室不足は深刻であることを共有しました。

「なんで友だちと別々の学校になるの?」という疑問を共有し、意見交流しました。

参加者の感想

- 自分が働いている学校だけでなく、同じ北河内の学校も同じような状況や悩みがあることを知り、「他校よりマン」でかたづけたいと感じました。
○個人では把握できない内容なので、集まって確認ができることが大切だと思いました。今後1400人以上増加の推計を出しているにもかかわらず、なぜ学校を作らないのか理解ができません。
○子どもたちの思い、保護者の思いを考えたら、やはり在住市に支援学校が必要なことと、小〜高まで安心して居られる学校でないといけないと改めて思いました。
○子どもも先生も保護者ものびのびとできる環境を整えることは、行政の最低限の仕事だと思います。何とせよ、まず適正規模(150〜200人)の学校にしたいです。署名もがんばります。
○他校の状況も深刻で驚きました。個別的教育支援計画で切れ目のない支援教育をうたっている一方で、教合わせやその場しのぎの対応しかしないことに腹が立ちます。



白石正久さんの講演を聞く参加者のみなさん

参加者の感想

- 今の自分の悩みも前向きにとらえられました。
○滋賀県にあった支援教育の原点のお話が心に残りました。発達のお話もたくさんヒントをいただきました。しっかり実践していきたいと思えます。
○成長的事実に偏っていないか、通常学級に沿える子どもをつくらうとしていないか、日々の実践を見直す機会になりました。
○レポーターの実践が素晴らしく、大阪の学校現場に未来を実感できました。
○若い先生が日々奮闘して実践されている話を聞くことができ良かったです。あたたかく、おだやかにその子の思いをさぐり、その子の力を見出そうとしているのが本当にステキだと思いました。

つながりあい、学びあう大切さ実感

秋の学習交流集会in滋賀

11月21日、全教障育教育部近畿ブロック「秋の学習交流集会」が滋賀県・大津市で開催され、近畿各府県から多くの参加がありました。午前は、龍谷大学名誉教授の白石正久さんが、「発達のなかの『きらめき』」子ども理解を深め実践していくために」と題して、記念講演を行いました。午後は、5つの分科会で子どもや授業のことを語り合いました。

一緒に参加しましょう!!

第22回全国障害児学級&学校学習交流集会in京都+オンライン

毎年参加されている方は、どんなことが印象に残っているのでしょうか。私がこの数年の中で一番記憶に残っているのは、日本の障害者施設での殺傷事件が起きたことをうけての、ある先生の講演でした。障害児者を育てるとはということか、人を教育するとは何なのか、深く考える機会になったのを今でも覚えています。初めての参加の方も、気軽にご参加ください!!(寝屋川支援分会 樋口)



期日: 2023年1月7日(土) ~8日(日)

場所: 京都教育大学 開催方法: オンライン併用

参加費: 現地参加・オンライン参加ともに2000円 (1日のみ参加は1000円) =>組合員は参加費を補助します

